

審議会等の名称	平成 25 年度第 2 回阿見町立学校再編検討委員会
開催日時	平成 25 年 9 月 26 日（木） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 25 分
開催場所	阿見町役場 3 階 第 305 会議室
議 題	1. 町立学校の再編に関するアンケート調査結果について 2. 町立学校再編計画策定に係る意見交換会の開催について
公開・非公開の別	公開 *傍聴者なし
議事結果	<p>【出席者】（委員）</p> <p>糸賀忠委員，大久保久夫委員，坂本靖夫委員，田村敏博委員，小松澤唯一委員，長尾和博委員，北澤孝雄委員，藤山英夫委員，堺仁美委員，後藤祐一委員，岡田治美委員，大越きよみ委員，高野好央委員，正木敏明委員，藤平竜也委員，菅谷道生委員，立原秀一委員，諏訪原実委員，中島雅己委員の 19 人</p> <p>（町教育委員会）</p> <p>竿留教育次長</p> <p>学校教育課：黒井課長，小倉補佐，山本係長，小林主事</p> <p>昭和(株)：山崎主任</p> <p>【次第】</p> <p>1. 開会 2. 教育次長あいさつ 3. 委員長あいさつ</p> <p>4. 議事</p> <p>(1) 町立学校の再編に関するアンケート調査結果について</p> <p>(2) 町立学校再編計画策定に係る意見交換会の開催について</p> <p>5. 閉会</p> <p>【会議内容】</p> <p>2. 次長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。ただ今紹介のありました教育次長の竿留です。本日は大変お忙しい中，第 2 回阿見町立学校再編検討委員会にお集まりくださいます。誠にありがとうございます。皆様には日ごろから町行政に対しまして大変お世話になっているところでございます。第 1 回目は欠席になりまして誠に申し訳ございません。第 1 回目の会議については，皆さんに委嘱状を交付いたしまして，委員長に北澤委員長，副委員長に田村副委員長ということで，青山教育長より北澤委員長に諮問書が手渡されたということで議事録を読み取っております。その後，再編検討委員会の概要について今の学校の現状，アンケート調査に対して，それから諸々有意義な意見を頂戴しまして本当にありがとうございます。本日は今年度の目標であります再編基本計画の策定に向けて，10 月から予定しております小学校区ごとの意見交換会開催に当たりまして，お手元の次第にありますように，これまでの経過，アンケート結果等について担当の方から説明いたします。委員の皆様方の忌憚のないご意見をいただきますようお願いしまして，簡単ではご</p>

ざいすがあいさつと代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

3. 委員長あいさつ

皆さんこんばんは。何分ご多用のところ、そしてお仕事でお疲れのことであろうと思います。皆さん方お役に付いているわけですからお忙しいだろうと思いますが、中でも区長の皆さん方は敬老会本当に準備等々で大変お疲れかと思えます。台風 18 号の影響によりまして集中して行っている 4 か所の小学校区では中止としました。そういう意味では関係の区長さんご苦労様でした。来年に生かしていただいて立派なものが出来ればということでもあります。本日は、ただ今竿留次長からお話がございましたように、またご案内させていただきましたように、アンケートがまとまりました。意見交換会ということで、このアンケートを皆さん方にご報告をしたい旨の話がありまして、それならば、ぜひ委員の皆さんにご報告してご理解を得て、またご意見を伺って、そして意見交換会に臨みましょうかという話を委員長としてさせていただきました。本日急遽ですがこのようにさせていただきました。資料が手元に届きましたらボリュームのあるアンケートでして、なかなか皆さん方も熟読まではいかなかったかと思いますが、事務局の方からの説明を受けながら理解を深め、そして意見交換会に臨むにあたっての皆様のご意見があれば、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。あいさつに代えさせていただきます。

4. 議事

(1) 町立学校の再編に関するアンケート調査結果について

〔事務局より資料に基づき説明〕

議長 事務局からの説明が終わりました。今の説明で分かりづらかったとか質問がありましたらお願いしたいと思います。

委員 アンケートの小学校ごとの回収率はどうなっているか。学校ごとに教えてもらえますか。

事務局 申し訳ありませんが、手元にありませんので用意しますので少しお待ちください。

委員 9 ページのマトリクスの見方だが、全体のカテゴリーについては分かりやすくていいが、個別の例えば 2-3 クラス、4-5 クラスの総数を加えていくと、それだけで 7 割かそれ以上になる。こういうゾーンをメインに対象検討していく。多数決原理を働かすと大勢の意見を検討対象にすべきなのか、または少数意見の 5 クラス以上ここは 32 人だが、この表を横に見ていくとパーセンテージだけを見ると大きな数字に見えるが、実際の数字 32 人でパーセンテージは大きい数字は少ない。これをどのように反映させていくのか。

事務局 例えば 9 ページの複式クラスを選んだ人が 19 人しかいない。統計学的に

言えば、ある一定の人数がいないと、1人で割合が大きく変わってしまうので、複式クラスは19人、6クラス以上が32人なので、これで多い少ないを語るには少なすぎます。逆に言うと複式クラス、6クラス以上は非常に少ないということですよね。一応選択肢として並べてはいるが、人数の一番多いところとその前後です。2～3、4～5クラスを中心に見るという見方になると思います。一学年あたりのクラス数の話をベースに考えるべきなのか、一クラスあたりの児童数をベースに考えるのか、保護者の視点から考えると、担任の先生が身近な存在になるはずなので、先生と子供たちの関係から考えると一クラスあたりの児童数の方が重要なファクターで、逆にそちらの方が考えるべき視点としてあるのかなと思う。それが積み上がって、一学年何クラスになるとかになるのかなと思う。一クラスあたり何人であるべきか、20人位なのか30人位なのか意見が分かれています。注意しなければいけないのは、私も含めて教育者的な立場ではないので、何となく素人的判断として少ない方がいいのではないかという意見が入っているということはあるので、教育的な現場の意見を聞きながら検討していくうえでその次にクラス数の話になっていくのかなと思います。

委員 最大公約数的なゾーンを検討する場合には検討対象とするという絶対条件ではないですよ、そういう考えで進めていくと。

事務局 それはテーマによって難しいが、確かにアンケートなので一番多いところの意見が多いということになるが、内容によっては例えば少数派の意見が2割でも、2割の方を大事にしないといけないというテーマもあるかもしれません。

委員 そこが我々の悩むところかと思うので聞いたが。

事務局 今の段階で、アンケートの手法ということでいくならば、割合としての意見が多いところを見ないといけないと思います。

委員 クラスだけのところと言えば実穀小とか吉原小を見ると、2～3クラスがいいという回答が多いので、そこに皆さんの希望はあるといえるが、テーマによっては少数意見をバツサリ切るというのはいけないだろうと思いつつも、どこかに基準的なものを持っていないと船頭多くして船山に登るということになると思うので、そのあたりのアドバイスをしてください。それからもうひとつ、資料の相当数の自由意見があるが総数は何件あったのか。

事務局 分かっている数字で答えられますが。

委員 私が数えたら七百数十件ですね。

事務局 ただ一人で色々なところに入っているので人数的には少し違います。

委員 自由意見の集約したところで、一人で複数の意見を書いている人がいるが、それぞれに割り振って集計しているのか。

事務局 そうです。集約したのが49.50頁だが、ここには載っていない意見もたくさんあります。色々なご意見があるんで学校再編に関係のない、例えば町行政や教育行政に対する意見などがあって、整理の仕方があるのかもしれないが、学校再編以外については除いてあります。

事務局 学校ごとの回収率は、阿見小 82.5%、実穀小 78.8%、吉原小 81%、本郷小 81.7%、君原小 79.7%、舟島小 81.1%、阿見第一小 91.4%、阿見第二小 87%です。その他保育所、幼稚園はちょっと低くなっています。

委員 阿見小の保育所も入れた回収率は。

事務局 保育所は保育所ごとに取っています。保育所の幼児はどこの小学校区分からないので、学校ごとの回収率には入れていません。君原小地区でいうと全体の回答が 83 で、うち小学校の保護者からの回答は 47 で、残りの 36 は君原小学区に住んでいる保育所・幼稚園に通われている保護者から回収したものとなります。君原小学校からは 59 のうち 47 の回収で 79.7%になります。回答数 83 には君原小学校区に住んでいる、小学校、保育所、幼稚園の保護者全体の回収数で、回収率 79.7%は君原小学校での回収率となります。一つの幼稚園でも、複数の小学校区から通われているので、学校区ごとの回収率としては入れられないが、回答数としては入れてあります。

委員 現状の通学について、アンケートを見ると 50 頁のスクールバスを運行してほしいという意見が多く、それから遠距離通学で時間が長くないようにしてほしい、安全確保ということだが、現在のスクールバスの運行している学校、バス通学の学校、それから遠距離通学者の徒歩での通学時間はどれくらいか。また、通学路に車が突っ込んできて死傷者が出るような状況もあるので、保護者が安心して通えるような再編にするためには、通学路の安全対策が必要になると思うが、現在通学路の危険箇所はどれくらいあるのか把握しているか。アンケートの数がずいぶん多いが、本郷地区の新設校建設に関する意見が多いが、回答できれば教育委員会の考え方を教えてほしい。

事務局 小学校に関しての専用のスクールバス運行はありません。阿見小、吉原小、阿見第一小が通常の路線バスを使っています。町からバス会社に対して路線バスの維持のために補助金を出しています。中学校では竹来中学校がスクールバスを使っています。

委員 通学には最長どれくらいの時間がかかっているのか。

事務局 最長について今は分からないですが、アンケートのなかで 1 時間かけて通学しているというのがあります。

事務局 町内の学校の配置が大体 4 km以内になっているので、長い所で約 1 時間かかると思います。通学路の危険箇所は実際たくさんあります。昨年、通学路の緊急合同点検というのをやりました。

事務局 教育委員会としては、特に危険な箇所として 17 か所を把握しています。それ以外に各学校では危険箇所マップというのは作っていると思うんです。ここは不審者が出たとか、ここは横断歩道がないとかという危険箇所マップを作っていますが、その一つ一つについての集計はしていません。第二小でも作っていますね。

委員 新設校の問題について考え方があればお願いします。

事務局 新設校については、学校用地が20年前から本郷ふれあいセンターの脇にあります。将来的には建てる必要があると思っています。今具体的には予算にも載っていないし、計画にも載っていない状況です。ただ、小学校を建てるには、1年目に基本計画、2年目に実施計画、その後2年かけて造りますから、もし今年計画に載ったとしても出来上がるのは4年後ということになります。教育委員会として造りたいという思いがありまして、町当局と交渉をしている最中ですので、今は造りますとは言えない状況です。将来的には造っていきたいと考えています。

委員 アンケートを見ますと、本郷地区の人たちの要望が強いわけです。人数からいっても八百数十名の児童がいるわけです。読んでみると、プレハブ校舎を造って対応すると書いてある。そういうことから、現時点で学校再編をしようとするときに町として何も考えていませんというのは、ちょっと理解できません。もう少し早い対応が必要なのではないかと思いますが。

事務局 ここまで来てしまったので、新設校を踏まえた議論にもなってくるのかなと思います。再編と併せて新設校の問題も出てくるかと思いますが。

委員 今は現状を聞いてただけだが、10月からは小学校区ごとの意見交換会で生の意見を聞いてくるわけですので、併せて再編の考え方をきちんと出せるようによろしくお願いします。

事務局 誤解されているかと思いますが、プレハブ校舎といっても現場事務所のようなものではなく、鉄骨造の永久的なものです。

委員 永久的とかじゃなくて、児童が八百数十名もいるのに現時点では新設校の考え方がないので、プレハブ校舎で対応するということですよ。がっちりした鉄骨造の新しい校舎を造ります。そのがっちりした校舎を壊さなきゃならないということは経費の無駄になるんじゃないかなと思います。

事務局 来年、吉原小、実穀小、本郷小の耐震化工事を実施して、すべての小中学校の耐震化工事が終了します。今後再編で色々なパターンが出てくると思いますが、例えばですよ、ひとつの小学校が廃校になったとしても、別の形に利用するという意見も出てくると思います。学校を潰すということはしませんから。そういったこともこれから議論になってくると思います。例えば宿泊施設とか、第二図書館とか。

委員 それは再編された後の話だと思うんですよ。

事務局 できれば、そのあたりも望んでいます。

委員 そうしたことも考えておかないと、さっき申し上げた本郷地区の新校舎の建設の問題にもっと力を入れてほしいと。

事務局 今取り組んでおります。前向きに進めていきたいと思っています。

事務局 全体の子どもの数が減っているのです、小学校の教室数は町全体をみるとあるんですが、本郷小だけが足りない状況です。再編計画で枠組みを決めて、やはり本郷地区に新しい学校が必要だという結論にもっていかないと、なかなか難し

い。教育委員会としては、子どもたちの近くに新しい学校を造りたいんですけど、町全体の予算の中で色々な意見があるので、検討委員会の中でも新しい学校の必要性について煮詰めていただいて、それを武器に町から予算をもらって進めていきたいと考えているところです。

委員 今の問題にもう一度お伺いしますが、重要な問題ですよ。再編については八百数十名の児童がいるわけですから、今の施設では到底間に合わない状況に今なってきているわけですから、再編にかかわらず、その地区で話が出てくると思います。そういうものを町としては十分に考えておいてほしいということで質問しました。

委員 本郷地区の現状と併せて確認したいことがあります。学校の予定地は、大学生の娘が3歳の頃からあった話で、それがあから引越してきたという人が非常に多いです。それは噂であったので、私達のときはできないなあで終わったんですが、現在は本郷地区を売る業者も全てあそこに学校ができますとって売ります。なので、皆さん結局だまされたということになるんです。それがこのアンケートに反映されているものなのかなと思う。できるという看板が立っているので、何となくできるのかなで済んでいるのであれば、アンケートにこんなに出ないと思います。できるから買ってる、できるから来たという方がほとんどです。その方があそこに集中して住んでいるので、その方たちにきちんと説明しないとこの話はずうっと続くんです。というか何年も前から続いている話で、私も町の方にお聞きすると、その話はまだないんですというところまでしか聞けないので、地区でその話をすると裏切られたということになるんです。本郷地区の方にそのあたりとなぜ長くあそこのあるのか現状を説明していただくと、もう少し分かってもらえるのかなと思います。その説明もぜひよろしくお願いします。

委員 この委員会の最初から、阿見町はこの検討委員会をどういう目的で招集したのか、今日改めて聞きたがったが、私の感覚としては小規模校の統合とかが、主な主題なのかなと思って参加しています。その中で、今出てきた本郷小の問題は別個の問題になるので、同時進行で再編をするのか、それとも本当の目的はどかなのか、どういう方向に向きたいのかということをもっと伺いたい。そうすると我々ももっと色々な意見を出せると思う。

事務局 25年に基本計画、26年に実施計画ということで進んでいます。基本計画というのは、再編の組み合わせが3とか5とかのパターンを作ります。来年度は、実施計画としてその中からどのパターンがベターなのかを検討するということです。例えば5パターンの中で、現在8つある小学校が5校になって、中学校3校はそのままとか。小学校が5校と新設小学校が1校と中学校が3校とかの複数の再編パターンが出来ると思います。例えば、物理的にないと思いますが、通学区域を変えれば、今の8校でいいというパターンが出てくるかもわかりません。25年度はどのようなパターンが、阿見町として考えられるだろうかということ

を、策定して答申していただくということです。

委員 招集した目的は何なのか

事務局 招集した目的は、この間説明したとおり、吉原小は何年かで複式学級になってしまいます。ただ君原小は5年後でも75人と現況のままなんです。実穀小も100人を割ってきて、本郷小は今後も増えていくという状況で再編計画の策定が急務となっていることから、基本計画・実施計画を作っていくということです

委員 小規模校の統合ということを検討していくということでもいいのか。

事務局 ただ、子どものことを一番に考えての再編ということです。例えばですが、8つの小学校が5つになれば、それだけ予算が少なくなって効率化ということもあるが、あくまでも子どものことを一番に考えて、予算については後からついてくる問題です。例えば君原小の2年生は女子が9人、男子が1人という中で切磋琢磨して頑張っていて、その後に竹来中に上がってくるわけです。そのあたりの部分でどうなのかと。舟島小は、現状では南平台地区から多くの子どもさんが通ってきます。でも6年先になると、今の0歳児が10人くらいですからかなり少なくなってきます。そのような状況でどうなのかということを検討していただきたい。筑見区なども昔はかなりの子どもがいたが、ところが現在では残念ですが、若い人が巣立って行って少なくなっています。コミュニティのしっかりしている地区ですが、いずれはこういう時期が来ると思うんです。君原小は明治10年頃の創立ですが、もともと追原、君島、飯倉にあった学校を現在地に持ってきたんですが、相当の議論があったと思います。阿見中から朝日中、竹来中が分かれたということで、その時代時代で再編とか分離とかをしてきており、またその時期に来たということをご理解いただきたい。

委員 例えばですよ、予算が100万円しかないんだという中で、本郷小を建てるとすれば統廃合する事は決まってくる。教育委員会としては本郷小を作るつもりでいて、小さいところは統合していくという考えであれば、私達がこれから1年かけて議論していくのは、そこに協力していく意見なのか、それとも全部取り払ってストレートな意見を聞きたいというのか。ある方向に決まっているということであれば議論が変わってくる。むしろお金があるのか無いのかというところが原点になってくると。議員の方もいるが、私たちの意見でお金も増えるんだということで、全部の学校を残して本郷小を作るんだということが通るのであれば、そちらのほうに力点をおきたいし、いや予算は決まっているんだということであれば、本郷を作るのか、小さいところは統合せざるを得ないのかという考えのもとに検討していくという、そういうことになるのか。

委員 目的を聞きたいのは、いわゆる事務局のいう子どもたちがかわいそうだからということだけでは、皆さんを説得するというのは、やはり色々な面から検討しないと難しいと思う。ひとつ避けて通れないのは財政上の問題です。これは町が明確に説明しないと、例えば統合することによってどのようなメリットがあるのか。例えば地方交付税なんかはどうなるのか、小中学校費がどうなるのかとかを

オープンにしていかないと中身の議論がしづらい。

事務局 今後、当然そのような資料を出していくことになります。今日はアンケートの報告と、それを踏まえて意見交換会で意見を聴取していきたいということで、今後資料を出していくことになります。

委員 意見交換会には、財政上の問題については資料に入らないのか。アンケート結果の報告が中心となるのか。

事務局 色々な意見が出るとは思いますが、意見交換会についての説明はこれからいたします。

事務局 意見交換会については、再編のはっきりした方針が決まっていないので現状を説明して、皆さんのご意見を伺う予定です。

委員 目的としては直に意見を聞くということか。

事務局 そうです。財源については、再編のパターンによって違ってきます。例えば、新設小学校を造るということになれば、ひたち野うしく小学校の例では、約30億円かかります。ただ30億円ですが、国庫補助金や起債という借金ですが、そういうものを活用して一般財源ではそのうちのいくらかということになります。今日第2回目の委員会では、10月1日からの意見交換会にアンケート結果を出すにあたって、委員の皆様方に結果を報告させていただいています。

委員 資料編の18頁の下から5行目の40代の方の意見が興味深かった。説明の中では人口の自然増とか自然減という話であって、社会増を見込んだところは全然触れられていませんよね。町行政の在り方として、この方がおっしゃっているような、例えば実穀、君原、吉原にニュータウン形式の住宅計画とか盛り込まれていって、やがて人が増えるということになれば、統合してまた分離ということも考えられるのではないかということで非常に興味深く読んだ。行政として、あそこの広大な土地をどのように生かしていくのか、例えば県営や町営の住宅地を誘致するとか。工業団地としてどんどん開発されている。開発に伴って、6次総では4万7千から5万2千に5千人増やそうという計画ですよ。

事務局 その後、5万人に修正になっていると思います。

委員 それでも3千人増ですね。それをどこの地区で考えていくのかという社会増についても、ファクターとしては、非常に難しいファクターになるが考えていかなくてはいけないのかなということはこの意見を読みまして感じました。

事務局 平成5年に都市計画ということで本郷地区の計画を立てて、あの本郷地区だけで人口7万人、小学校が3つ必要という推計をした時代がありました。ですから将来的な推計というのは難しく、6次総では本郷地区だけで実穀とかは住宅等のゾーンとしては入っていないかと思います。町のビジョンというものも、ある程度把握していないと説明できなくなってしまいますので。

委員 今後減るとするのは自然増減率だけの数字ですね。

事務局 現在の0歳児までの人口で、将来的に区画整理を実施するとかは見込んでいません。

委員 統合してしまっ、その後人口が増えてきてしまうという、例えば昭和 42 年か 43 年頃に阿見中に統合されて、12 年ぐらい経った昭和 55 年に朝日中が分離、さらに 7 年後に竹来中が分離した実態があるわけです。集めたらいいが、またすぐに 10 年ぐらいの間に新設校ができるというような、それで構わないということであればいいが、やはり社会増減的なところも視野に入れて考えていくべきだと思います。

事務局 おっしゃる通りです。牛久市でも新設校を建てたが、またもう一つ建てるような状況になってきたようです。その時代で統合したり分離したりというのは、スパンの問題はありますが出てきます。

委員 今の指摘はとても重要だと思います。もし分かるのであれば、阿見町の将来像を出してもらって、そのうえで学校はこうだと、こうしようというものがあれば見せてもらって。そのうえで現状はこうなので、こうして行きましょうということで議論すべきではないか。何もない今現在の既存のものの中で、統廃合しますといっても何もないのだから。特に小学校の場合は、どこの地区へ行っても街の中核なので、小学校を中心に発展しているの、それで若い夫婦も来るし。本郷ふれあいセンターの近くの学校用地の立て看板が立っているし、役場の資料にも載っていると聞いてます。ある意味町はコミットしているわけです。それで造るとか造らないとか言ってること自体がはっきりいって情けない話で、早速やるべきだと思う。町長が去年、二区で広聴会をやった時に、小中一貫校を作りたいような話をしたように聞いています。その時点では本郷ふれあいセンターの近くの用地には学校を建てないと。それで二区北、南の区長をはじめ、我々がビビってしまったわけだ。それで場合によっては署名活動をしませんかと持ち掛けられたが、その時は時期尚早ではないかと。広聴会で町長は言っている。ところが、その後、今年の区長会総会の我々の前で、町長はあそこの学校造りますって言ったんです。みんなの前で公言してしまったで、我々はそれを信じているんです。今ここで事務局が、造るかもしれないし造らないかもしれないと悩む必要ないんだよ。親分が造ると言っているんだから。

事務局 町内部としては、町長がいくら言っても財源の問題もあるので段取りを踏んでいきますので。ただ、町のビジョンがないといけないと思います。学校を造るとなると、区画整理は今のところ予定はありませんが、人が集約してきて住宅が増えて土地が上がるというようなバブルの懸念もあります。

委員 そういう状況で阿見町が地方行政として近隣の市町村と競争をしているわけです。今、ひたち野うしくに行ったらどんどん栄えてる。そうすると人口が増えて、学校を造らないといけない。阿見町は何にもしないから、議会も行政もその辺をしっかりとねじを巻いてやるんだと。だから我々は集まって意見交換をやるんだということ言ってもらわないと。さっきからそれを期待しているわけですから。ただ単に意見だけ出させて何も答えられないんじゃない、今度小学校毎に行っても今話を聞いていると非常に心細い。いろんな意見が出たときに、その場で

うろたえてしまっただけではどうにもならないので、きちんと理論武装なりしてやってもらわないと、我々ここまでやってきて、これからやるんだからお願いします。

委員 学校関係の中長期計画とか学校白書のようなものは策定されているのか。

議長 ただいま、委員の皆さん方から大変貴重なご意見を、ご心配を含めて意見交換会に臨むにあたって貴重な意見だったと思います。確かにアンケート結果の報告をしたいというその気持ちは十分に分かるが、それだけでは済まないですよ。ですから、そのような心構えを持って臨んだ方がよろしいでしょうという意見だったと思います。今の事務局の話の中で、はっと思われた方もいたかと思えます。本郷小を新設するという意見が出ましたが、新設については再編をどうするのかということ、この委員会が決定をする。その決定をした中に、本郷小を新設すべきかというものが出たら、初めて動くんですというふうに聞こえたんですが、この委員会が大変な重荷を背負っているというふうにとったんですが。それはよろしいですか。

事務局 小学校用地というのがありまして、その通りです。

議長 皆さん方が大変な責任をこの委員会が負っているということです。議員の委員さんもいますが議会がうんぬんじゃなくて、この場で決定するということですか。決定というか答申をするということですか。

事務局 再編のパターンというのは色々あると思います。小学校新設の問題は、避けて通れないと思います。それを踏まえて先ほど話しました。今の8つの小学校の再編の検討の中には、小学校新設もありますので、それも踏まえた中で検討いただきたいということです。

議長 皆さんが心配しているのは建てるべき本郷小というのは、裏切られたという皆様方が意見を持っていますよという発言がありましたね。本郷地区の皆様方そういう気持ちが強いですと、そして意見交換会をやってもそういう意見が出ますよという意見があったわけですね。本郷小を作るかどうかは、もっと別のところで決定すべきと委員の皆様は思っていたんじゃないかと思うんですよ。再編と絡ませてこの委員会で答申をして初めて、基本計画やって実施計画やって4年かかるという話でしたね。この委員会は2年間ですから、2年間はそういう話がどこから出ても進まないということになるのか、それとも本郷小のことだけはこの委員会とは別のところで方針を決定していくんだと、なぜならば資金の問題も関わってくるわけですね。そういう疑問符が私もあるものですから、皆さんも同じではないかと思ひまして話をしているわけです。

委員 今日の目的はということがありました。児童数が減少していることと、それと並行して避けては通れない本郷小の建設という問題。これは町長も、議長とも話しましたが造るというのは私も聞いておりますので、並行して進めていくと。

議長 委員といいながらも議会の中でも現役でもありますから、今皆さんお聞きになった二本立てで行きたいということ、今申されているわけですね。二本立てというのが、どういうことか分からないところもありますが。

事務局 二本立てというよりも建設については、教育委員会としては町長部局の3か年実施計画に要望をしているところです。

事務局 教育委員会としては新しい学校を建てたいと思っています。本郷小の子どもがさらに増えてしまって対応しないといけないので、町部局に要望をしています。再編検討委員会は、新しい学校を含めて子どもがどこの学校に通うかという形を決めるところなので、新しい学校を作ればどこの地区の子どもが通うのかも決めなければいけないので、その辺を含めて建てるのか建てないということではなく、建てた場合に通学区域のパターンの案としてできればと思っています。

委員 付随するのでもいいですか。先ほど委員長が言ったのは、この重要な問題である新設校を作ることをこの委員会が決定してよろしいかと具申したわけです。そうしたら教育委員会、町の方では併せて作りますよとして再編するのかどうか。重要な問題なので、例えば建設委員会を作って進めるのか。それで建設委員会とこちらの再編委員会で話し合っただけで結論を出しましょうとか、あるいは最終的に具申したものを町長が決定するとかいろいろあると思うんですが。委員長が聞いたかったのは、ここで決定していいんですかということ、再編に当たって地元の住民がほとんど全員新設校を建てなきゃ再編できないとなった場合どうなるんですかということ。それを委員長は聞いたんです。

委員 ここの委員会で新設校を造ることを結論付けるというのは違うと思うんです。これは予算もあって、一般の市民もあって建てることを決めるというのは、我々は再編ですよ。その話は別で、子どもの数が少なくなって再編しなければいけないということで、この中で建てる事まで決めるというのは、本郷の人は建ててほしい、少ない学校はうちの方へ遠距離通学してもらえばいいでしょうという対立軸になってしまうので、みんな事情事情を抱えているから、逆に問題が出てきますよね。行きつくところはあるが、その決定は我々に委ねられても私は困ると。

事務局 あくまでも決定は予算を計上して議会の承認を得るということです。ただ、本郷小用地があるので、並行して再編は再編で検討をお願いしますということ、教育委員会としては並行して予算要望をしているところです。

議長 最終決定は議会だということは分かるが、その間のところの流れがよく分からないわけです。例えば冒頭お二方が答えてくれたことは、この委員会で決定するように受け取れるわけです。ところが議員さんから二本立てでという話がひとつと教育委員会で予算化をするという話が出ているわけです。そうなるこの委員会は、最終決定は議会であってもどのような位置付けなのかが皆さんも心配されているところなわけです。この委員会は何を決定するんですかと。最終的には答申書を作るわけですから、その前に教育委員会が予算化ということで走ってしまって、作るとなればどこがエリアとして対象にするとか具体的なものになっていかないと、工事費とか建てることになれば、そういうことも検討していくわけでしょう。

事務局 工事費の検討は。

議長 教育委員会として予算化を申請しているということは、学校の規模がどのくらいかということになるじゃないですか。そうすると、どこからどのエリアの子どもたちを対象にして学校を作ろうとしているのか。それには金がいくらくらいかかりますというのが予算ですよ。それであれば教育委員会は学校に関していちばん重いところですよ。ですからそこで結論が出るのであれば、ここでもか本郷小のことを、アンケートを見ると新設小学校の157人とか相当の数の要望があるので、意見交換会でも必ず意見が出ると思うです。その時の答えの仕方と我々がこの後検討しますが、参加した時にどのような認識で臨めばいいのかということが、事務局と我々の方に大きな差がありすぎるのかもしれないですが。一つひとつの言葉の中に役場流の発想と企業と一般の考え方にちょっと差があるんじゃないかと思います。

委員 本郷小の問題は、何らかの手を打たないともう避けては通れないんです。プレハブの4教室造ったって追いつかない。今すぐやったら4年とか5年とかで、ぎりぎり間に合うかどうかで切実な問題を抱えているわけです。それはそれだと。それに伴って統合とか検討していきたいとか、学区を変えて実穀小と一緒にあって再編成するとか、アンケートにも書いてあるがスクールバスを出してもらわなきゃ困るとか、または出しましょうとか。今バス通学している家庭では一年間で10万円になってしまうとか。生々しい話がでていところもありますよ。町はこうして補助を出しますよとか、バス会社に金を払うのも大事だろうけどその辺も出してもらって、その上でみんなの知恵を出していく。

事務局 皆さんの貴重な意見を聞いたうえで、さらに町民意見交換会を行って、事務局で何パターンかの学校再編の案を出していくわけですね。例えば3つとか4つとか。

委員 出来上がっているのですか。

事務局 事務局で勝手に作るのではなく、皆さんの意見を聞きながらです。例えば一クラス35人がいいとか決まってきましたね。そうすると児童数は5年後にはどうなってくるか分かるわけですから、事務局のほうで、新設校を作った場合、統合もあって小学校が7校になるとか、6校になるとか出したなかで、再度議論していただくということをお願いしたい。

委員 その話は決定しましたと言われたほうがやりやすいんです。本郷地区の小学校は議会でも決まっていますと。そう言ってもらえば、残った少ない学校の再編をしなければいけない。例えば、第二小も少ないので阿見小に行くのは仕方ないねという説得はできると思います。本郷小ができて予算とかやったときに統合しなければダメだということになれば、それはちょっと言いづらくなりますね。本郷小のために何でという話になりますね。そういう話が全体として出てきた場合、増設のために我々はこちらに行くのという余計な話が出てくるので、ここはここで決めて自分のところへというのはちょっと違うかなと思う。

委員 再編パターンというのは、本郷の新設校ありきの何パターンということ考えてよろしいでしょうか。

事務局 まだそこは決定していません。

委員 決定していないが、パターンを考えていく上で、それが緊急的なことで作らなければならないと皆さん新設ありきのパターンを考えざるを得ないと思うんです。それが全く白紙の状態で考えるとなると難しいと思う。

事務局 今後予算化になりますよ。そして基本計画ができれば、新設校建設ありきの何パターンが出来てきます。

委員 それをはっきりしてもらったほうが進めやすい。

事務局 町内部では政策調整会議、3カ年実施計画で検討して、採択となったものは26年度予算編成となって議会承認を受けた上、小学校の基本計画作りが始まると、小学校を建てることありきの再編パターンが出てくるという形になります。

委員 諮問委員会を招集しているわけですから、趣意書をもう少し具体的に4つのパターンがあるとおっしゃいますけど。

事務局 まだ分からないです。4つになるか5つになるか、これからです。

委員 複数のパターンを考えて今後行くという話しですけど、そういう意味合いのプランというのは、教育委員会から諮問するときにある程度は町から説明があってもいいのではないかと。

事務局 委員長から最終的に答申されるのは26年度の末で、今年度はあくまでも例えば5再編パターン出たとすれば、26年度はそれを一つに絞って行って、最終的に教育長に答申ということになります。

議長 皆さんが心配しているのは、我々が答申するのは2年後でしょう。かたや教育委員会の方では予算化の話がちょっと出たじゃないですか。我々は2年後に答申よりも、予算化のことも教育委員会がこの委員会とは別に出していくわけでしょう。それが二本立てという意味なのかなと私はやっと理解しているんですが。

事務局 二本立てという言葉がいいのか分かりませんが、先ほど言われたように新設校ありきのパターンが出てくるということです。

議長 だから、もしそうだとすれば、新設校ありきだという話をしてもらったほうが、我々もそんな心配をしなくて済みますねという話。

委員 小学校の新設を決定してからのほうが、かえって再編計画がやりやすいのではないかと。

事務局 今日アンケートの集計が出て、検討委員会も当初6回の予定ですが、もっと多くなると思います。今、9月でやっとアンケートの結果がまとまって、皆さんから貴重な意見が出ている状況です。

委員 答申することになっているので、新設校ありきで答申してしまっているんじゃないですか。

議長 皆さんが心配しているのは、アンケートの報告を受けて例えば49頁の中で、

新たに小学校を建設してほしいというのが157件あったわけです。膨大な意見が出されたわけですよ。今度皆さんの意見を聞くにあたって、同じように出るでしょうと予見されるわけですよ。我々委員が参加したときに、どういう意識で参加したらいいのかということが心配で、皆さんから今日こういう意見が出たと、私はそういう認識をしているんですよ。ただ単に報告ですよといっても我々委員が出席していて、とりあえず報告だけですよ、それはとりあえず話を伺っておきますよというふうにならざるを得ないと思うが、でも冒頭の話だとこの委員会の中で再編の中で新設かどうかのところまで結論を出すように言われましたから、そこが皆さん不安になっているわけです。

事務局 少し誤解があるかと思いますが、これから先に進んで予算化になれば新設ありきの再編パターンが出てくるというのを望んでいます。ただ議会で認められなければ現行でということになります。

委員 まったく異質の問題を一緒にしようとしている。本郷小の方はさっきから言っているように、待たなしで4年後、5年後にあふれてしまう。手を打たなかったら行政の怠慢なわけです。それをここであえて諮問することが愚策なんです。それは役場として責任を持ってどんどん進めていかないといけない。その上でその他の学校の再編を考えましょうというなら検討しやすい。

事務局 おっしゃるとおりです。

委員 それで良いんですか。

事務局 いいです。それで進めていきたいんです。

議長 本郷小は新設する方向ですという頭で、我々は2年間経ってから答申書を作るわけですね。

委員 待たなしにくるんだから、2年間無駄な時間にしたら意味無いですよ。

議長 そうなってくると、委員が申し上げたとおりの社会的動向を十分に考えて、つまり、今第6次総合計画をやっておりますが、その中にそういったことをどう入れていくのかということも大きな課題になってくるわけです。この委員会の答申うんぬんじゃなくて。教育委員会という教育に関する最大の委員会があるわけですから、余りダブったことをしてもいけないし、我々委員会が出すぎてもいけないし、しかし委員会はこんな権限を持っていますよというのであれば、そのような方向性で行かなきゃ行けない。そういう権限を持ったとすれば、それなりの情報も提供してもらわないと判断がしにくいという意味で、先ほどは各委員から心配した意見が出たと思います。最終確認の意味で本郷小は新設ありきと。それはいつ新設するかは分かりませんよ。それは別の委員会で方針を出して最終的には、議会が決定するわけですからそれは分かりません。今の段階で今度の意見交換会に臨むにあたっては、別のところで検討するが本郷小新設ありきの検討をしていますというように事務局から答えてもらえれば、このように皆さんが心配するようなものは、喧騒なものにはならないんじゃないかと思います。本郷小の意見交換会をしたとしても。そこを明確にしてもらえばよろしいんじゃないかと思

います。それはそちらの委員会にお任せするという事です。

委員 少し振り出しに戻ってしまうような意見で申し訳ないが、私の認識としては学校再編というのは本郷の新設小学校も含めてのものだというのがあったんです。諮問書の方にも、増えている学校の対応ということも載っていると思うんですね。だとしたらそこも我々も検討していくべきではないかと思ったんですよ。

議長 委員に言われると重いですよ。

委員 予算化するみたいなこと言っているけど本当か。

事務局 予算化するのではなく要望している段階ということです。

委員 だから併せて、我々も要望を出していくという方法も。

議長 それだと2年後だから遅いでしょうという意見で。

委員 諮問書に対する答申を2回出しても、極端なことを言えばそれでもいいんじゃない。どうしても必要であれば、本郷小の新設は待たなしに来るんだから、これはこれでまず作ってくださいと出して。

委員 私もそう思いました。

委員 その後、統廃合については喧々諤々というふうにはいかないけど、そうじゃないといけないんじゃないかと。

委員 だから私はそこだけ先に意見を出すことができないかなと思いました。

議長 私は答申というのは、全体が出来上がってからという純粋な気持ちで思っていましたから、それで間に合うかなと思いましたが、そうじゃなくて緊急を要すると。それからアンケートの中に、皆さんの意見でどうなっているんだという声が強いことでこういう議論になっているわけです。

事務局 委員会の所掌事務としては、あくまでも小中学校の再編計画の策定に関するということで、新設の部分については再編とは別に157の方が新設してほしいというのがあって、建設と再編は別だと思えます。

議長 でもね、そちらを建てるんだということになっていけば。

事務局 ですから、委員からあった二本立てというか建てるという前提の再編の検討をしていただきたいということです。

委員 現時点で相当の児童数があるのに新設校を建てなければ、再編ができなかったら教育委員会はどうしますか。賛成を得られないで、新設校を建てなければ再編できません反対ですよとなったらどうなるんですか。それがなければ我々答申できないですよ。計画はありますよ、何年後かぐらいには大丈夫ですよとかなければ。

事務局 まだ現況の説明で、5年後10年後については説明していませんので。

委員 10月から地区に行って意見を聞くわけですから、本郷地区に行って大半の人から新設校ができなければ、再編なんて賛成できませんとなったら我々は答申できなくなってしまう。

委員 本郷小の問題は前を見て進んでるわけです。そうすると住民の合意形成というのはそんなに難しいわけじゃないと思います。要するに予算がついたり、町の

方向性がしっかりすれば最終的には議会の承認ということで、この流れは我々も目に見えているんですね。大変なのは小規模校の統合ですよ。住民の合意形成というのが非常に難しい。自由意見を讀みますと、まさに反対、賛成が入り乱れている。そこらへんが検討委員会の役割なのかなと思います。これから住民説明会に入りますので今のような話では、アンケート自由意見では一番激しいのが君原小学校区から出ているんです。54頁の一番下に「つまるどころ、再編によって財政の負担が軽くなるというのが大前提にあり、生徒のためというのは建前にすぎない」と激しいのがある。「統合により過疎地域はますます活気を失い」というのもあります。次のページの一番上には「児童数は地域差が出るのはあたりまえです。だからといって統合してしまうと広範囲になってしまい、先生方の目が行き届かなくなる。統合には絶対反対。」というものすごく激しい意見。これを説得するのは大変なことだと思うんです。我々は統合という答申書を最終的に書き上げるとすれば、ここのところをクリアしなければ前向きの統合案なんていうのは出せないですね。そこが我々の本当の仕事かなと思いますね。そのためには、検討委員会を作らなきゃというのは後押しをすることを我々に担ってほしいということが本音じゃないかと思います。

議長 もう一方の役割として我々検討委員会が機能しなければならないという話でした。どうですか先ほどの、またさっきの話に戻ってしまいますが皆さん、それで理解できましたか。大丈夫ですか。

委員 結論が出ない。

議長 最終的にどのようにまとめればいいんですか。

委員 新設は新設でいいんですが、新設するに当たっては、どこまでその学校に入れるかということもありますし、それと将来的にもっと人口が増えるかもしれないということで、また作るというわけにはいかなくなるので、将来的ビジョンを当然考えていかないといけないと思うんです。それも含めて、作るのは作るが我々はその周りの問題をどうするかというのを含めて考えないと統廃合にならないですね。なので、作るのはいいいですが、どこの範囲までをその学校区にするかという再編も含んでいると思うので。

委員 教育委員会は、小学生の遠距離通学を例えば30分以上をそうみなすのかどうなのか。遠いというのはニュアンスでは30分前後ではないか。うちの場合は1時間。1時間かけて歩いていくという子どもは他にもいるわけですよ、実穀とかあるわけですよ。地域によって阿見町の場合点在しているわけですよ。真ん中に自衛隊があるし。そういう地域には問題があるので難しいかもしれないが、どのくらいの時間かかるのか良く考えて、それに伴って将来的に学校をどのように設置していくのかという教育委員会の基本的なコンセンサスがあるんだったら教えてほしい。そういうものが無いと我々も話ができないかもしれない。統廃合といっても、既存の学校を1ヶ所に集約するのか。バス代を払いますということになるのか。そのあたりを教えてほしい。

事務局 今後資料を提示していきます。それによってスクールバスなのか、徒歩なのかということになるかと思えます。

議長 それではだいぶ時間も経過しました。それなりに意識も揃ったかと思えます。最後にひとつだけ念を押すようになるが、本郷地区の新設校については、新設する方向で別の委員会が動いていますよということで、それを頭に置きながら、この委員会としては再編ということで検討してくださいと。別のところで検討しているものがだめになったらだめになったで、2年間あるのでその中で検討してくださいと。当初は新設ありきで検討していくと、具体的には委員から出た意見については、そういうことでのやり取りを今後していくということで、そういうことの確認で皆さんよろしいでしょうか。

委員 あくまでも決定は教育委員会でこちらの委員会ではないと。

議長 この委員会ではないということで、事務局よろしいでしょうか。

事務局 はい。

議長 それでは、この委員会はそういう意識で進めていきましょう。併せて意見交換会でのそういったやり取りは全て、難しい問題ですから、次長なり課長の出た方に、本郷小では必ず出ますからご答弁をお願いします。我々が分からないことを言ってしまうと、お互い混乱してしまってもいけませんから。事務局としてうまく意見交換会の対応をお願いしたいと思います。皆さんいかがですか。このアンケートのおかげで、皆さんから心配が出たということで良いことだと思います。その結果がこのような形で共通の認識を持てたということは、よろしかったのではないかと思います。こういうふうに議長がこのように能力が無いものだから、申し訳ありません。もう少しきばきと要領よくやればよかったんですが。

(2) 町立学校再編計画策定に係る意見交換会の開催について

議長 だいぶ時間が経過しましたので、意見交換会でどうしても報告しておきたいこと、皆さんにこのように臨んでほしいということがあればお願いします。

[事務局より資料に基づき説明]

議長 当日の資料はどうなっているか。

事務局 お配りしておりますA4横綴りの資料と茨城県教育委員会の発行したリーフレット2種類の3種類を配布して説明したいと考えております。

議長 今日詳しく説明のあったこちらの資料は使わないということですね。

事務局 大分細かい資料になりますので。アンケートの本編につきましては、町のホームページで公開していく予定です。

議長 本編の後ろのほうに、関係するもので大分意見がありましたよね。意見交換会の出席は、できれば自分の該当するところには出てくださいという話ですけど、そのほかじかに余裕のある方は全部出ていただいても結構ですと。そのときの役割としてはどうなんですか。我々は黙っていればよろしいんですか。これを見ると検討委員会を発足しなくちゃいけないと書いてありますね。今日の意見交

換会にも検討委員会の委員が出ていますという自己紹介ぐらいはするんですか。資料の7ページに入ってますよね。委員はみんなと同じ席に座っていれば委員ですか。それとも事務局と同じところに座るのか。

事務局 一般の参加者と同じ席に座っていただいたほうがいいかなと思っていますが、いかがでしょうか。

参加者 10月5日は君原と舟島が入っているんですが、個人的な意見ですが土浦の花火大会と重なってしまうんです。花火を見に行く年齢層が若い人か、おじいちゃんおばあちゃんなのか分からないが、参加者の年齢層が偏ってしまうかもしれないし、もしかしたら偏るよりも集まる人数がどうなのかと思う。出欠を取るわけではないがどうかと思います。

事務局 日程を組むにあたっては、花火のことも承知していたんですが、前後でも小学校や町民運動会があるということで、できるだけ短い期間の中でできればと考えたものですから、舟島小地区と重なってしまいますがこのような日程を組ませていただきました。

参加者 子どものいる保護者は他の地区よりは少なくなってしまうかなと思ったんですけど。

議長 スケジュールとしてはこのとおり進めると、回覧廻しましたよね。それでその結果、ただいまの委員のご心配したようなことがあった時どうするかということとは。

委員 もともと世帯が少ないので集まるのはいつも同じなんですよね。たくさんの方に参加してもらったほうがいいと思いますが。開催していないので分からないが、年齢層が偏ったところから出てきた偏った意見になってしまうかもしれない。

議長 もしそういった問題が発生した時にどうするかは。これは実施することにして、集まり具合とか年齢層とか問題だという場合には意見を出していただいて、次善の策を考えていくということでしょうか。

事務局 1回目の委員会でスケジュールを説明させていただいたが、その中で第2回目は基本的な考え方や再編パターンを検討したうえ、11月頃に開催する予定となっています。本日が第2回ということになりましたので、1回目に大規模校・小規模校の実態を知るような機会が作ったほうがいいという意見がありましたので、校長先生に来ていただくようなことも考えております。それは4回目以降ということで、検討委員会の回数が増えていくことになると思いますので、よろしく願いいたします。

議長 それでは日程が確定しましたら連絡をお願いします。

委員 検討資料がありました、もう少し早めに送っていただければと。

事務局 申し訳ありません、出来るだけ早く送付したいと思います。

(午後9時25分閉会)